

<ポイント版> ぎふ経済レポート（令和元年 8 月分）

【景況感】

景気は、一部に弱さも見られるが、緩やかな回復が続いている。

【製造業】好調な業績の一方、貿易摩擦等による先行き不透明感もある

○製造業は、鉱工業生産指数で非鉄金属やはん用機械を中心にすべての主要産業で前月比低下した。ヒアリングにおいては、受注状況が好調等といったプラスの声もあれば、米中貿易摩擦をはじめとした海外情勢への不透明感からマイナスの声も聞かれ、先行きの見通せない状況となっている。

【地場産業】厳しい状況が続いている

○地場産業は、鉱工業生産指数で木材・木工品や窯業・土石等が前月比で低下したが、食料品やパルプ・紙等は上昇した。ヒアリングにおいては、市場の冷え込みや原料価格高騰を不安視する声も聞かれ、依然として厳しい状況にある。

【設備投資】落ち込みが長期化している

○設備投資は、工作機械受注額については、国内向けは 8 ヶ月連続、海外向けは 9 ヶ月連続で前年同月を下回っている。ヒアリングにおいては、慎重な投資姿勢の企業も見られる一方、人手不足解消に向けた設備投資には、比較的活発さが見られる。

【個人消費】一部に駆け込み需要が発生

○個人消費は、小売店の販売額については、ドラッグストアが前年同月比で増加したものの、全体としては 6 ヶ月ぶりに減少した。消費増税を控え、高額商品に駆け込み需要が発生しているとの声があり、また、軽減税率制度等に対応した動きも見られる。

【観光】観光客数、宿泊客数ともに前年同月を上回った

○観光は、豪雨や台風、猛暑等に見舞われた前年同月と比較すると、天候に恵まれたことから、観光客数、宿泊客数ともに前年同月を上回った。

【資金繰り】資金繰り環境に変化はないが、外部要因による影響が懸念される

○企業の資金繰りは、借入環境に変化は見られない。一方で、金融機関としては、消費増税や海外情勢にかかる為替動向等、外部環境による企業への影響を注視している。

【雇用】人手不足の状態が慢性化している

○雇用面は、有効求人倍率等の関連指標が高止まりする中で、一部企業には受注減を主因として、人手不足感が薄まってきてはいるとの声もあるが、全体的には依然として人手不足が慢性化した状態にある。